

平成24年度 卒業生講話（渡邊廣乃氏 ～あきらめない～）



1月24日（木）のLHRを活用し、1、2年生合同での「卒業生講話」を実施しました。この企画は、国内外で活躍する本校卒業生の豊かな経験談を通して、在校生が高校生活をより実りあるものにしていくことを願って行っているものです。

講師には、現在、旭川市在住のプロテニスプレーヤー渡邊廣乃氏をお招きしました。

氏は、本校第56期の卒業で、慶應義塾大学環境情報学部に進学、学業とテニスを両立し、4年次には主将として10年ぶりに関東学生リーグ1部昇格を果たしました。

その後、プロとして本格的にテニスをはじめながら、同時に大学院（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科スポーツマネジメント専修）に進学するなど、想像を絶する厳しい世界での挑戦を続けてこられました。

大学院修士課程卒業を機に、昨年春から活動拠点を地元旭川に移し、現在は、サントピアテニスクラブ（東京）に所属し活動を続けておられます。

「あきらめない」と題した講話では、渡邊氏がモットーとする「文武両道」を柱に、複数の目標に向け不屈の努力を続け自己実現を目指す厳しさと、その結果得られた何にも代え難い感動と充実感を、具体的な体験に基づいて熱く語られました。

プロとして、参戦するトーナメントの選択、それに向けた周到な準備、移動手段の確保、慣れない食事や宿泊施設等、転戦を繰り返す中で、いかにプレーに集中できる環境を整えるのか、競技のみならず、競技を行う上での自己管理能力が問われる厳しい現実も紹介いただきました。

また、様々な場での人との出会いへの感謝、縁を大切に、周りの人の声を自分の栄養にする謙虚さ、安易に他に流されることなく、しっかりと自分で考え、自分で決断することの大切さなども切々と語られました。

渡邊氏は、「『あきらめない』とは、後悔しない人生のために努力を惜しまないこと。『あきらめない』ためには、自分の意識の持ち方が大切。転がっているチャンスを自分で掴む。物事はやってみないとわからない。失敗は自分の器を大きくするチャンス。迷ったら大変な方を選ぶ。常に前向きな姿勢を持つ。今しかできないことに全力で取り組む。それを自ら楽しむ。」と語られ、その熱いメッセージは、聴衆の心に響くものでした。

ご多忙の中、貴重なお話しをいただきました渡邊氏に深く感謝申し上げますとともに、プロテニスプレーヤーとして益々活躍されることを、在校生とともに心から願っております。

